

独自に地下空洞調査

一三北路と ひまわり建設

自費で解析依頼、品質確保へ

一三北路（本社・札幌市北区）と同社グループのひまわり建設（同）は水道、下水道管路の更新工事などに合わせ、独自に地下空洞調査に取り組んでいる。自費で専門会社に調査・解析を依頼し、空洞の有無や危険性を把握。工事の品質確保につながる。札幌市内でも生活道路を中心に道路陥没が発生していて、取り組みが広がれば予防保全に効果を発揮しそうだ。

埼玉県八潮市で2022 高まっている。

5年1月に道路陥没事故
が発生。下水道管の老朽
化が原因とされ、地下イ
ンフラへの社会的関心が
高まっている。

者には施設の維持管理状況
の公表を義務付けること
を柱とする改正下水道法
が成立した。

下を通る生活道路で多く
発生している。

した岩崎（本社・札幌市
中央区）の関係者も見守
る中、施工前調査を8日
に実施。土木管理総合試
験所の担当者が3、4以
下まで電磁波が到達する
地中レーダー探査装置を
載せたカーンを押しながら、丹念にデータを収集
した。



札幌市も幹線道路を中
心に空洞調査
を順次進めて
いるが、全市
的な把握には
時間がかかる
見通しだ。一
方、道路陥没
は水道、下水
道の枝線が地
下にあるため、

8日に実施し
た施工前調査
の様子。関係
者が映し出さ
れた画像を見
ている

「事前調査で陥没の予兆
が確認できれば、発注者
に対応策を提案すること
も可能になる」と続ける。
ひまわり建設土木維持
部の大河原利也部長は
「幹線道路に比べて舗装
厚が薄い生活道路の方が
陥没する可能性が高い」と
指摘。調査費は決して
安くはないが「取り組みが
他社にも広がり、調査が
進めば、インフラの安全
・安心につながる」と意
気込んだ。

下水管路更新工事など

今回の取り組みを仲介